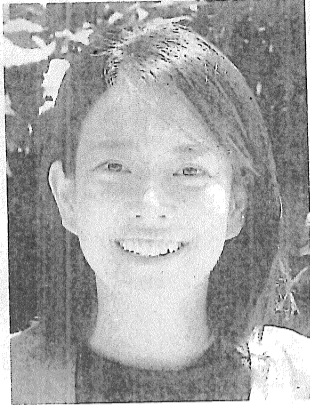


学び直しいつでもできるよ

弁護士・都議 五十嵐衣里さん



1984年、愛知県出身。中2で不登校に。22歳で高校卒業程度認定試験に合格し、24歳で大学に入学。名古屋大学法科大学院に進み、30歳で司法試験に合格。7月の都議選で初当選した。

中学2年の途中で、学校に行くのをやめました。(数字や文字でメッセージを伝える)ポケットベルで、クラスの複数人から悪口を言われたことがきっかけです。「キモイ」とか「シネ」とか、わざ

わざ公衆電話から送ってくるんです。ターゲットにされて、まもなく登校をやめました。親は「とにかく行きなさい」。家にいられず、友人宅やカラオケボックスで時間を潰していました。

1年くらいたって、親が「学校に行かなくていいから一緒に夕食を食べよう」と言ってきた。2日くらい帰宅せず、何も食べないこともあったので、不登校のまま中学を卒業。飲食店でアルバイトを始めた。

いま思えば転機だったのは、正月のシフトについて店長ともめ、「明日から来なくていい」と「クビ」にされたことです。悔しくて調べた

ら、労働基準監督署というものがあると知り、相談したら「不当解雇だ」とバイト先に連絡してくれて、30日分の給料が支払われました。法律を知らないと思われ、一方なんだ、と思いつきました。その後、トラック運転手など職を転々しました。

でも、賃金が低く、将来も上がる見込みがない。このままではまずいと思えました。もともと勉強は好きだったので、自分の特性を生かすために、30歳で司法試験に合格し、国会議員の政策担当秘書を4年間務めました。弱い人になるのが嫌だったので、政治のしくみがおかしいからではないか。そうした思いが強くなってきたからです。

昨年、弁護士登録し、若者からのLINE相談にもかかわってきました。コロナ禍で「死にたい」という声が増えました。今後は議員として、自殺対策や、生きづらいついてはいる若者の支援に力を入れたいです。

不登校・不当解雇・24歳で大学へ

同調圧力から外れてもいい

コンサル会社社長 藤井宏一郎さん



ふじい・こういちろう 1972年、東京都出身。9～14歳に米国の公立小中学校に通う。東大法学部を卒業し99年に旧科学技術庁入庁。グーグル・ジャパンなどを経て2014年にコンサルタント会社「マカイラ」を設立した。

父の転勤で小3の夏に米国に住み、小5の時から「タレント・デイベロップメント・プログラム」という特別教育を行うクラスに入りました。クラスメートは20人ほどで、本来は上の学年で学ぶ代数や幾何学を学んだり、シェークスピアの原文や英国ロマン派

の詩を読んで劇をしたりしました。日本の小学校では話を聴くだけの授業を苦痛に感じ、よく騒いで廊下に立たされていた。しかし米国では、年齢でクラスが決まる日本と違い、習熟度に応じてクラスが分けられており、先生も個々

の能力をできるだけ伸ばそうという考えでした。授業は楽しく、孤立を感じることもありませんでした。しかし、帰国して中2から地元の公立中学校に通うと、テストで満点をとっても英検1級に合格しても、難しい課題を出されることもなく、先生からは無視されていると感じました。学習塾で何度も手を挙げて発言すると背後から舌打ちが聞こえてくる。皆と同じことをすべきだという「同調圧力」に苦しみました。

国内トップの高校や大学でなら、様々な才能のある個性的な友人に出会えると思いい、私立開成高校から東京大学法学部に進学しました。ところが、当時は横並び競争の中、官庁や大企業などに就職し「要領よく成功する人」をめざすのが主流でした。それにあらがいたくて、大学4年時に休学して家を出て、バイトしながら世の中のことを根源から考え直そうとしました。

ただ、周りが就職したり司法試験に合格したりするのは、立ち直れたのは、好きな音楽と詩があったからです。米

国を代表するロックミュージシャンのブルース・スプリングスティーンのほかに、あらゆるジャンルの詩が好きでした。周りが言うしゃくし定規な「成功」ではなく、自分が本当に好きなことを追い求めようと考えました。焦りとプライドを捨てたことで、自分

を取り戻すことができたと思えます。日本の同調圧力は圧倒的で、正面から立ち向かうと、いじめられたり、孤立したりします。苦しんでいる人がいれば、周りが言う「成功」を追うのをやめ、自分が本当にやりたいことを、ゆっくりでいいから探してほしいです。頭の中だけでも他人と違う自分自身を大切にしてほしいです。(聞き手・伊藤和行)

世間の「成功」より自分の「好き」

- 子どものための主な相談窓口
- ◆NPO法人チャイルドライン 支援センターが運営するチャイルドライン(毎日午後4～9時) ☎0120・99・7777
 - ◆「24時間子供SOSダイヤル」 ☎0120・0・78310
 - ◆いのちの電話フリーダイヤル(毎日午後4～9時) ☎0120・783・556
 - ◆児童相談所虐待対応ダイヤル(24時間) ☎189

◆朝日新聞デジタルにインタビュー全文を掲載しています。